

創立125周年記念行事

「夢を捨て、目標を持つ」をテーマに テレビでお馴染みの小倉智昭さんが講演 附属高校・中学校でセミナー開く

中央大学附属高等学校は6月23日、同校出身のフリーアナウンサー、小倉智昭さんを招き、同校講堂で講演会を開いた。中央大学創立125周年を記念して開催したもので、小倉

さんは「夢を捨て、目標を持つ」と題して一時間ほど講演し、在学中に所属した陸上競技部の思い出話などを巧みな話術でおもしろおかしく紹介。後半には、同校出身で今、売り出し中のミュージシャンが飛び入り出演するサプライズがあり、講堂を埋めた附属高校と4月に新設された附属中学の生徒は歓声と拍手で湧いた。

附属高では短距離選手で活躍

1966年に同校を卒業した小倉さんは、在学中は陸上競技部に所属し、短距離選手として全国大会に出場するなど活躍。大学は獨協大学（外国学部フランス語学科）に進学し、卒業後は東京12チャンネル（現テレビ東京）にアナウンサーとして入社。その後、29歳でフリーアナウンサーとなり、現在は司会者・タレントとして幅広く活躍している。

テレビでお馴染みの小倉さんが、附属高校・中学校の三枝幸雄校長に伴われて舞台上に登場すると、講堂を

埋めた1683人もの生徒から「ワーツ」という歓声と、大きな拍手が上がり、講堂内は一気に賑やかな雰囲気になりました。

マイクを持った小倉さんは、生徒に語りかけるように話をはじめた。秋田県出身の小倉さんは、中学入學と同時に秋田市から東京に上京、「方言で自己紹介をしたら、周囲に笑われた」という。また、「幼

いころから吃音、どもりの少年だった」と話し、「どもりを克服するために、敢えて人

前で話することを仕事とする道を目指した」とアナウンサーを目指した理由を語った。

「好きなことをとことんやる」

中央大学附属高校に入学してからは陸上競技の部活動に明け暮れた。当時は男子校で「弊衣破帽」のパンカラの風潮にあり、陸上部でも先輩



講演する小倉智昭さん



巧みな話術で笑いを誘う小倉さん

後輩の關係が厳しかったことなどを紹介。そんななかでも、「400mを走っていると、それぞれのコーナーに女子高生が立っていて応援してくれていた」と小倉さんの人気ぶりを窺わせるエピソードを笑いなが

ら話した。

自分の能力の限界を感じて、「陸上部をやめようと思ったこともあった」という。その時、父親に「『入った以上、意志を貫け』と言われ、陸上競技を続けた」と打ち明けた。おかげで、全国大会に出場、4×400の1600mリレーでは当時の高校記録を出した。

「一度も受験勉強をしたことがない」という小倉さんは、ひよんなことから獨協大学に進学。そこでも陸上競技、バンド、演劇などに熱心に打ち込んだ。そんな自分を振り返り、「学生時代に好きなことをとことんやってください」と後輩にメッセージをおくった。

目標持ち、自分の力で実現を

東京12チャンネルのアナウンサーになってからも、「ニュースを読んでいるだけでもりが出た」という小倉さんは、競馬が好きだったため担当した競馬中継で、どもりを克服するた

め馬の名前に枕詞をつけて喋ったのが受け、競馬中継実況アナウンサーとして一躍名が知られるようになった。

「何が災いになるか、何が運を切り開くかわからない」と小倉さんはいう。

今回の講演テーマの「夢を捨て、目標を持つ」は、子供のころに父親から「夢は夢で終わる。だが目標は自分で到達することができる」と教わったからだという。「人頼りの夢ではなく、目標を持ち、自身の力で実現することが大切だ」と強調した。

そして、今回の講演会では、同じく附属高校の卒業生である若手ミュージシャンのナオト・インティライミさんがサングラスを脱ぎ、ステージに登場し、今話題のCMソング『タカラモノ』のこの声がなくなるまで』を在校生の手拍子の中、熱唱し素晴らしい盛り上がりを見せ、セミナーを締めくくった。

(学生記者 藤森皓子 文学部1年)